

『佐賀県近世史料』第八編(思想・文化編)第3巻 今春刊行予定

今春『葉隠』周辺の関係資料の第3巻目を刊行します。今回は『葉隠』を語った山本常朝(1659～1719)が教えを受けた石田一鼎(1629～1693)の関係資料と、同じく常朝と交友があった小川俊方(1646～1726)の著作を中心に編さん中です。

この三人は期間の長短はあれ、いずれも第二代藩主鍋島光茂(1632～1700)の近くに仕えた人物で、本巻の資料により、光茂を中心とする17世紀後半の佐賀藩文化(思想・学問)の状況をかい間見ることができます。ことに今回は石田一鼎の代表的な著作とその家に関わる資料を網羅しました。なかでも『石田私史』は『葉隠』

研究の一資料というだけではなく、この時期欠落する藩政期の基礎資料としても、十分に活用できるものと思われ、大名間交際や民政・各種の情報などに関わる事項も見られます。

また、『憲法本紀』『潮音和尚咄』は小城出身の黄檗宗の僧潮音が、この時期の佐賀藩に深く影響を及ぼしていた事実を知ることができる資料です。

さらに待望久しく今回はじめて活字化された小川俊方の『焼残反故』は、享保9年(1724)の成立で、享保元年成立の『葉隠』とあい前後し、以後は藩主年譜の編さんにも利用される重要な書物となって行きました。

本で見ると佐賀

県立図書館で受け入れた図書の中から、佐賀に関する本を探してみましたのでご紹介いたします。

呼子のイカはなぜ美味しい？

野村 祐三／著
幻冬舎メディアコンサルティング／刊

呼子のイカ料理とイカ加工品についてのルポ。名物「イカ活き造り」は昭和44年に登場。船の生簀(いけす)の内側に渋柿を塗ってヤリイカの擦れを防ぐなど、イカ釣り漁師の知恵と工夫も紹介。



岩倉使節団における宗教問題

山崎 渾子／著
思文閣出版／刊

岩倉使節団に、副使として佐賀藩から山口尚芳が随行し、その役目は「耶蘇教徒事情調査」のためであったなどと、「米欧回覧実記」を中心とした使節団関係史料から検証。



九州戦国合戦記

吉永 正春／著
海鳥社／刊

「北肥戦誌」から龍造寺氏と神代氏の戦い、龍造寺氏と大友氏との戦い「今山合戦」、龍造寺氏と柳川の豪族蒲池氏との戦い「柳川合戦」、龍造寺隆信が討ち取られた「沖田暁の戦い」について記述。



日本を二流IT国家にしないための十四カ条

木下 敏之／著
日経BP企画／刊

佐賀市のIT化について、前佐賀市長が解説。基幹コンピューターシステムの導入に際し、「ダウンサイジング」「ソースコードの開示」及び、「ソフトの知的所有権の確保」の3つを実現し、開発期間の短縮や運用経費の削減に結びついたなどと記述。



佐賀県の山

宮原 晃・筑紫 太郎／編
山と溪谷社／刊

初級クラスの登山者が無理なく歩ける県内の登山コースをガイドした本。佐賀県の最高峰「経ヶ岳(1075.7m)」、山頂付近に3つの池がある「作礼山」、夫婦岩などの岩峰が見られる「黒髪山」、佐用姫伝説が残る「鏡山」などを収録。



九州の海

岡 博／著
西日本新聞社／刊

有明海沿岸の白石町さくらの里公園から見るノリひび、干潟体験できる鹿島市七浦海浜スポーツ公園、小城市芦刈町のシチメンソウの浜など、一方、玄界灘沿岸では、唐津市の七ツ釜、立神岩、田島神社の浜くんだり、唐津市鎮西町の浜野浦の棚田などを収録。

